



路政春秋

縣道か嶮道か

石川縣下能登地方の道路は縣道か嶮道といはれておる、縣では之を征服すべく必生の力を注いで居る、改良工事が完成するの曉は嶮道變して本格的縣道となる次第であるから理想道路の實現に懸命である、他府縣でも嶮道征服にはドシ／＼完成に向つて邁進してもらいたいものである。

自動車事故は若年運轉手らぬぼれの罪か

自動車の運轉上道路の改良が最先であるべきことは勿論で路面不陸の惡道が如何に

自動車事故の原因を作るか世の已に認識して居る處であるがハーリー・ユム・ジョンソン博士の手に依つてアメリカ科學振興會に提出された自動車事故の統計に依ると、運動の技術巧拙よりも寧ろ自己のもつて居る

技量の誤れる評價の方が重大である、自己には事故が多いとさもありません。統計に表はれたる處に依ると一年間の轢殺事件操縱者の年齢別に依り一萬人に對する事故数は十六歳のもの二〇一人十七歳では一八六八十八歳では一四八八十九歳乃至二十一歳では二一五人二十三歳に至ると十八歳の一四八人を出し超ゆる程度となり二十五歳では

注 意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

更らに遙かに少なく四十五歳では七五人に止るものである、獨り自動車操縱界に限らず自惚とたかぶりは禁物である。

道路がなくなつて何の國防が

事變始まつて已に十ヶ月日に日に敗戦に次ぐに敗戦の支那では浙江以北の沿岸が日本海軍力で封鎖された爲の軍需品の窮乏深刻化し長期抗戦は一片の豪語に止まり佛領印度支那交通路、ビルマ交通路、ソビエツト交通路の三線に依り命脈をつゞけておるが民衆武裝による抗日軍事力を強化せんとするも國民經濟の戰時體系を整頓せんとす

るも軍器軍需品は勿論一般物資の運輸不便である爲めに國軍の再建は春宵の一夢と化し崩壊の一路をはや足で辿る外なきことゝなつた、そこで南方邊境をめざして交通路の建設に焦慮して居る實情であると道路の整備なくして何の國防か。

あるかなきかの珍聞

奇譚(14)

○巨象の齒化石 石川縣下七尾町郊外丘陵性の大杉崎は七尾セメントの原料として頼もしい地方資源開發の鍬が揮はれてゐるが原料土採掘中から巨象の齒(小兒頭大)の化石が発見された、さてはマンモスの齒など、噂の中から斯界の研究家七尾高等女學校正島教諭が調べた結果、マンモスに似たものではあるが *Dinoherium*(elephos) *namacius* の化石であることが判明した。

この化石は明治三十一年東京市江戸橋附近に発見され、その後千葉、神奈川、小豆

島等の本邦各地から発見されてゐるが北陸地方では全くこれが始めてゐる。

正島教諭は次の如く語つてゐる。

「能登半島も本州、四國、九州が南支那と接續してゐた漸新世の時代には隆起してゐて象の種類も分布してゐたが日本海の陥落とともに巨大なる *Dinoherium* は絶滅して化石となつたものと考へられる、この附近は第三世紀、第四世紀の化石に富み、化石の採集地も多い、横山博士が能登國に産する半化石貝との論文を發表してをられる如く化石が新鮮で石灰質に富み、ためにまた石灰質を要求する生物も珍らしいほど種類多く、私も材料の豊富な地方に奉職してゐることをこの上もない喜びとし、これからうんと調べたいと思つてゐる」

○日本人の頭 九大醫學博士平光氏の證明によると日本人の腦と歐米人の腦とを重量によつて比較してみたところ、日本人の成年男子における腦重量の平均値は西洋人よ

り重いとの結果が出た、頭の大きいことは一般的に見て頭腦鋭敏、成績優秀なるものに多い點に鑑みてこの事實は日本人の頭のよさを裏書する一つの據りどころになると見てよいといふ、また諸内臟との重量比においてはおいては心臓、脾臟、肝臟、腎臟などはいづれも西洋人が日本人より遙に大きいことが數字的に證明されたが、西洋人は體車の巨大なくせに日本人より小さい腦をもつてゐるのだから總身に智恵がまはりかねるだらうといふ、さらにまた系統發生學的に調べてみても長い形態の西洋人の頭は原始人類で額の出ること手の大きいことも野蠻人に近い證據だといふやうな結論がもたらされたと云ふ。

× ————— ×

× ————— ×